

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3070103399
法人名	株式会社 はるす
事業所名	グループホーム はるすのお家・和歌山
所在地	〒648-0085 和歌山市福島486-1 (電 話) 073-480-5670

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月26日	評価確定日	平成22年4月16日

【情報提供票より】(平成 22 年 1 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	32 人	常勤 8 人, 非常勤 24 人, 常勤換算	12.95 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円		その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有(200,000 円) 無		有りの場合 償却の有無		(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		900 円		

(4)利用者の概要(1 月 1 日現在)

利用者人数	26 名	男性	7 名	女性	19 名
要介護1	8 名	要介護2	8 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低 56 歳	最高 89 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	サンクリニック・下間クリニック・寺下医院・坂本歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは近くを紀の川が雄大に流れる閑静な住宅街の中にあります。ユニット毎に地域密着型サービスとしての理念を作成し、職員は理念のもと家庭的な雰囲気の中で自分がされたいようなケアを心がけ、利用者本位の生活が送れるように支援しています。また地域との関係も良好で自治会行事や地域活動に積極的に参加し、小中学校とも交流を図っています。職員間のコミュニケーション良く取れており、常にそれぞれの職員が利用者個々のペースを尊重し、利用者の言動からその原因を探り、その思いに沿って支援しています。介護する側される側という壁を作ることなく、3つあるユニットそれぞれの特徴を活かしたケアを行いながら一つにまとまったホームとなっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受け、課題であった地域密着型サービスとしての理念をユニット毎に作り変えています。自己評価票の作成にあたっては全員で取り組むなど、出来ることから改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の自己評価票はユニット毎に白紙の用紙を職員に見せ記入してもらい、リーダーが取りまとめて作成しています。各ユニットで違う内容となっており、それぞれ特徴が活かされたものとなっています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	運営推進会議は家族や地域包括支援センター職員、法人職員、管理者、職員等が参加し、6ヶ月毎に開催されています。会議ではホームからさまざまな報告がなされる他、家族からの意見や要望をもとに情報提供や助言を受け、サービスに反映させています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	家族とは常にコミュニケーションを図る中で、言いやすい関係を築き、運営推進会議の中や来所時に直接意見を聞く機会を持つよう努めています。また家族がより意見を言いやすいようにホーム内外の苦情機関を書面に掲載しています。出された意見はユニット会議等で検討され、家族にも報告しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	自治会に加入し回覧板等で情報を得て、地区のサマーフェスティバルや秋祭りに参加しています。地域の一員として利用者と共に清掃活動に参加したり、子供110番である「きしゅう君」にも登録しています。また小学校の行事に参加したり、中学校の職業体験を受け入れるなどの交流を図っています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を受け、ユニット毎に会議を開き元の理念を見直し、地域密着型サービスとして何が大切かを話し合う中で、3つあるそれぞれのユニット毎の理念を作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の経営理念を事務所に掲げ、ユニット毎の理念は誰からも良く見えるようにそれぞれの玄関に掲示されている。毎日の朝礼で理念を読み上げているユニットもあり、会議の中でも伝え確認合っている。職員は理念をもとに利用者本位の生活が送れるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板等で情報を得て、地区のサマーフェスティバルや秋祭りに参加している。地域の一員として利用者と共に清掃活動に参加したり、子供110番である「きしゅう君」にも登録している。また小学校の行事に参加したり、中学校の職業体験を受け入れるなどの交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を受け、課題であった地域密着型サービスとしての理念をユニット毎に作り変えている。また今回の自己評価票はユニット毎に白紙の用紙を職員に見せ記入してもらい、リーダーが取りまとめて作成している。各ユニットで違う内容となっており、それぞれ特徴が活かされたものとなっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族や地域包括支援センター職員、法人職員、管理者、職員等が参加し、6ヶ月毎に開催されている。会議ではホームからさまざまな報告がなされる他、家族からの意見や要望をもとに情報提供や助言を受け、サービスに反映させている。	○	運営推進会議を家族会や行事と一緒に開催したり、避難訓練の際に行うなど様々な形で2ヶ月毎に開催されることが望まれる。また自治会長や民生委員等にも参加頂き、より多くの意見が運営に反映されることが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種手続き等については法人担当者が窓口となり、市担当者と面談している。また管理者も何かあれば出向き、市担当者に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の写真を中心に編集されたユニット毎のホーム新聞を家族に郵送し、来訪時に日々の様子や健康状態について報告している。何か変化があればその都度電話で家族に報告している。金銭管理は預かり金とし、毎月の請求書を送る際に収支報告と領収書を郵送している。	○	ホーム新聞の一部に、各利用者の様子を記入するスペースを設けるなどして、個別の報告となるような工夫をされてはいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは常にコミュニケーションを図る中で、言いやすい関係を築き、運営推進会議の中や来所時に直接意見を聞く機会を持つよう努めている。また家族がより意見を言いやすいようにホーム内外の苦情機関を書面に掲載している。出された意見はユニット会議等で検討され、家族にも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が年に2回職員と面談する機会を設け、希望や意見を聞いたり、ユニットを周り声をかけるなどの配慮が見られる。また職員の希望を聞きシフト調整するなど離職を防ぐ努力をしている。入職時は利用者とのコミュニケーションを図り、ベテラン職員が間に入り馴染みの関係を築くことから始めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画が確立しており、外部研修等については習熟度に応じて管理者が指名して参加してもらっている。研修後は資料は持ち帰り回覧し、会議の際に伝達研修を行い、他の職員共情報の共有を図っている。ホーム内でもユニット会議の際に時間を設け、職員間での勉強会を行い、スキルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークに加入し、会議に出席したり研修の情報を得るなど連携を図っている。また法人内の3つのホームが連携し交流を図ったり、他のホームからの見学を受け入れ、意見交換する機会を確保している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する際にはなるべく見学をお願いし、家族等が見学に訪れている。また職員が自宅を訪問し、生活環境を見てホームにおいても環境の継続に努めている。入居後も家族の協力を得るなどして徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを多く取るよう心がけ、調理やことわざなどを教わったり戦争の体験談を聞いたりしている。ホームは家であるとの観点から職員はユニフォームではなく普段着を着用しケアにあたり、何でも一緒に行う中で、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一緒にゆっくり過ごす中で、個々の希望や思いを聞くように努めている。また思いを口に出せない利用者には家族から聞いたり、表情や行動から思いを把握している。独自のアセスメントシートを利用し情報を収集し、職員の日々の気づきや思いは申し送りノートで共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望をもとにアセスメントを行い、カンファレンスで職員が話し合いケアプランを作成している。作成後のケアプランは職員に確認しサービスを提供に繋げている。また必要に応じて医師や訪問看護師の意見を求め計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎にモニタリング、評価され見直されている。その際モニタリング表を家族に送り意見を求め、次のケアプランに反映させている。職員間でも毎月カンファレンスを行い、モニタリングに繋げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の専門医の通院介助や個別の希望による嗜好品の買物等に同行している。利用者の希望や状況に合わせ墓参りや利用者の親族宅への外出等を支援している。また利用者の希望に出来るだけ添えるように訪問理美容の業者を変更するなどの配慮が見られる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞きかかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医に継続して訪問してもらっている利用者もいる。週に一度、協力医と歯科医の往診があり、必要に応じて専門医に受診している。また訪問看護師と医療連携体制により日々の健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針は入居時に説明しており、時期が来れば希望に沿って「看取り指針」を交わし同意を得ている。今までに看取りの経験もあり、訪問看護と連携を図りながら主治医等の協力をも得ながら対応している。また職員間でも医療面の研修を行い、スキルアップに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーには配慮し、名字で呼ぶなど丁寧な言葉かけを心がけている。不用意な言動が見られた場合はその都度管理者がその場から離れたところで注意している。法人内でもプライバシーの研修を行っている。個人のファイルは事務所の鍵付きの書庫に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝はまちまちで、朝食時間に声はかけるものの、自由に摂ってもらっている。洗濯や調理などの役割りをこなしたり、好きな編み物をして過ごされるなど、個々のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いて献立を立て、2日に一度は地域のスーパーと一緒に買い物に出かけ食材を選んでもらっている。エプロンを付け台所に立つ利用者もあり、食事作りから片付けまで一緒に楽しく行っている。食事は会話を共に楽しみながら同じ物を頂いている。時には利用者の希望で外食に出かけたり出前を取ったりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の準備は毎日されており、利用者は日中の好きな時間帯に入ることが出来ている。希望があれば職員のシフトを調整し夜の入浴にも対応している。利用者毎に湯船を掃除しお湯を替え、入浴剤を使用するなどの配慮が見られる。拒否が見られる利用者には声かけを工夫したり、時間を変えるなどの対応で入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者が過去に得意であった事や楽しみ事をホームでも継続できるよう支援し、調理や洗濯、掃除、花の水やり、プランタの野菜作り等を役割とされている。また観劇に出かけたり、塗り絵や写経、編み物など楽しまれている。利用者や職員とのおしゃべりも楽しみな時間となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気候に応じて散歩に出かけたり、2日に一度は食材等の買物に出かけるなどの支援をしている。また定期的に外出レクリエーションを企画し、花見や外食、観劇に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	警察等からの指導もあり、安全のため門は施錠しているが、玄関やユニット入り口は鍵をかけないケアを実践している。利用者は自由にユニット間を行き来出来、他のユニット職員とも馴染みの関係にある。外に出たそうになっている場合は、利用者に関心などして原因を探り、思いに沿って支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行い、1度は消防署立ち会いのもとで行っている。また昼夜を想定して自主訓練も行い、近隣駐車場を避難場所として借りている。運営推進会議でも報告しているが、具体的な地域の協力を呼びかけるまでには至っていない。	○	情報を得て、地域で行われる防災訓練に参加しホームをアピールしたり、運営推進会議を利用して地域に参加を呼びかけるなどして、地域の方々も参加しての避難訓練が行われることが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量や水分量は記録に残している。1日30品目を目標に献立を立て、野菜を多くとるように心がけている。なるべく原形を崩さないように配慮し、状態に応じてはお粥にしたり刻んだりして提供している。献立は訪問看護師にも見てもらいアドバイスを頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を各所に飾り、共同作品や季節の飾りつけを施すことで季節を感じることが出来ている。各ユニット毎に和室にこたつを置いたり季節の飾りつけをし、また各所にベンチや椅子、ソファを配し、皆でゆったり寛いだり、一人になれるスペースを確保している。対面式のキッチンを利用者も入り易く、一緒に作業する風景が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はクローゼットが広く、地震等に備えてタンスを中に入れることもできる。床にカーペットを敷いたり、畳に布団を敷き休む利用者もいる。自宅からベッドやタンス、テレビ、位牌、家族の写真等を持参され、居心地よく過ごされている。		